



# HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race	SUPER GT Rd.2
	FUJI GT 500km RACE
Date	2016.05.03-04
Race Track	FUJI SPEEDWAY
Team	Gulf Racing with PACIFIC
Car	GULF NAC PORSCHE 911



## 開幕戦のトラブルから復活、予選 23 番手からポイント獲得を狙う

ゴールデンウィーク恒例の SUPER GT シリーズ第 2 戦が、5 月 3~4 日に富士スピードウェイにおいて開催。Gulf Racing with PACIFIC 「GULF NAC PORSCHE 911」(阪口良平 / 吉田広樹 / ディラン・ダーダエル) は、決勝レースの序盤に突如失速した車両を避けきれずに接触。ラジエターが破損したためにピットインし、レースを終える結果となった。

開幕戦の岡山で車両火災に遭った「GULF NAC PORSCHE 911」だったが、ドイツから新車が届き 4 月 28 日にはシェイクダウンテストを行い、GULF カラーを施しての富士入りとなった。富士スピードウェイは 1.5km のストレートを持つ日本屈指のハイスピードコース。しかしながら後半の第 3 セクターは上りながらのテクニカルセクションで、それなりのセッティングも必要となる。さらに今回は通常の 300km より長い 500km レースであり、ピット作業も 1 回多く迅速な仕事も要求される。最低車重は開幕戦より 10kg 軽くなり 1,245kg となったが、ストレートスピードの伸びない 2016 年モデルのポルシェ 911 GT3R は苦戦が強いられそうだった。

### 2016.05.03 FREE PRACTICE (フリー走行 21 位 / 29 台中)

WEATHER : DRY

3 日朝の公式練習には 15 台の GT500 車両と 29 台の GT300 車両、合わせて 44 台がコースイン。阪口がセッティングを確認しながら走り、今回が SUPER GT デビュー戦となり富士の経験の少ないダーダエルが 13 周。吉田はセッティングを確認して 5 周するにとどまった。阪口がマークしたベストタイムは 1 分 38 秒 619 で参加 29 台中 21 位。3 月の合同テスト同様のポジションとなった。



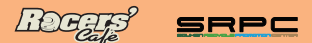
### 2016.05.03 QUALIFYING (公式予選 23 位 / 29 台中)

WEATHER : DRY

公式予選 Q1 は、阪口がステアリングを握りコースイン。阪口はタイヤに熱を入れながら 6 周目に 1 分 38 秒 046 までタイムアップしたが、全体的にもタイムアップしており 23 番手。これで Q2 進出できるトップ 14 に入ることはできず、ここでスターティンググリッドが確定した。



## SPONSORS



## PARTNERS





# HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



## 新車投入も序盤の接触で無念のリタイア

2016.05.04 RACE (決勝リタイア)

WEATHER : DRY

予選日の夜は春の嵐となったが決勝日の早朝までには雨は上り、朝のフリー走行は晴天で行われた。このセミウェットからドライコンディションになる路面で、阪口は 19 番手のタイムをマーク。改めてコンディションの悪い時のポルシェの安定性に、自信を深めるセッションとなった。



決勝レースは 14 時にフォーメーションがスタート。風はやや強いながらも五月晴れとなり気温も 22℃と、絶好のレース観戦日和となった。コースサイドのグリーンは水を保っていたが、路面は完全に乾いたドライコンディション。ステアリングを握るのは阪口。ピットインはタイヤの状態と相談しながら、中盤を吉田、終盤をターダエルが担当する作戦だ。阪口はオープニングラップでブレーキング競争をした際に、マシンの挙動が乱れ順位を 27 位へ落としてしまった。それでも大混雑するバトルの中で前が出るチャンスをうかがった。しかし GT500 マシンが周回遅れに始まった 5 周目のダンロップコーナーで、GT500/GT300 車両がダンゴ状態となり、前を走行する GT500 車両が GT300 車両と接触して失速。左右にも他車両があり数台が集中した場所で、阪口は避けきれずに前の GT500 車両に追突。これでフロントバンパーを破損してしまっ。しばらくは様子を見ながら周回を続けていたが、水圧メーターが低下を示したこともありピットイン。フロントのパーツがラジエターを破っており、これではレース続行不可能と判断したチームは今回のレースから撤退。わずか 12 周で無念のリタイアとなり、ターダエルの日本でのレースデビューも鈴鹿 1000km までお預けとなった。

### ■国江仙嗣監督

「今年型のポルシェは、バンパーなどの外板を軽量化のために硬いカーボンパーツに変更しましたが、これが裏目に出ました。ラジエターへの導風パーツが割れて、センターに配置されたラジエターを破ってしまいました。昨年までの車両であれば、こんなことにはならなかったと思うのですが、これもレースです。応援していただいたファンの方々やスポンサーには大変申し訳ありません。こういったアクシデントを踏み台にして、世界中のポルシェも速くそして強くなっていくと思っています。チームとしては前回のアクシデントもあり、準備が足りなかった部分もあったかもしれませんが。改めて気を引き締めて次のレースに臨みたいと思っていますので、ぜひ長い目で見ていただきたいと思います。前向きに頑張ります」

### ■阪口良平選手

「決勝日朝のフリー走行で上り調子でしたから、今回の結果は残念でなりません。大混雑になったダンロップコーナーで、数台の車両が圧縮された形になり前にいた車両を突いた形となり、結果ラジエターの水が抜けてしまいました。そういったシチュエーションにいた自分が悪いと思っています。次のレースでは予選から頑張ってもっと前を狙い、ポイント獲得というよりもまず完走を目指します。2 戦を終えてまだピット作業の経験もない状態なので、ひとつひとつ結果を残していきたいと思っています」

### ■吉田広樹選手

「地元（熊本）が被災したこともあり、レースの結果で元気を与えたいと思っていましたが、残念ながらレースを走ることができませんでした。2 戦続けて残念な結果となりましたが、気持ちを切り替えて次のレースでは、最初の目標である完走を目指します。若いメカニックたちはピット作業のタイヤ交換を一生懸命練習していますが、まだ本番のプレッシャーを知りません。そんな意味でも次の SUGO ではいろいろなことを経験してチームの総合力をもっと高めていきたいと思っています。引き続き応援をよろしくお願いします」

 吉田 広樹



## SPONSORS



## PARTNERS

